

トップインタビュー



日興電機工業 露木茂雄社長

— 御社の特長は？

「当社の強みは、大量生産だけでなく少量多品種に対応できる点にある。ノウハウを生かした熟練の製造技術により、月産10台やワンオフ部品の製造も可能だ。」

製造ラインでは、多品種少量生産に適したセル生産方式(ウサギ追い)を採用している。少人数が適宜移動して作業し、生産量に応じて人員を柔軟に配置するため、生産計画に迅速かつ柔軟に対応できる。

また、従来から自動化を進めており、量産に関しても余裕のある生産能力を持っている」

— ビジネスを取り巻

く市場動向は？

「当社はモーターをはじめとした製品を商用車や建機・特殊車両のメーカーに納入している。新型コロナウイルスの影響により停滞していた商用車市場も22年には上向いてきたため、右肩上がりの活況が期待されていたが、

上海ロックダウンにより横ばいで推移した。23年12月期も業績は横ばいで、経営計画より低めの業績が予測されている。建機などの市場は、3年周期で市況の上下動がある。23年は、脱炭素による石炭市場の低迷から、堅調だった欧州建機メーカーの業績が下振れし、当社にも影響した。24年度に訪れると予測していた傾向が前倒しとな

った形だ。

また、当社はグローバルに営業拠点を持つが、25年くらいまでは世界的に不透明な市況だ」

諸コストが高騰
価格転嫁進めるセル生産方式と技術力で少量多品種に対応
高効率モーターで多分野への進出狙う

— 22年度業績と23年度見通しは？

「22年度は増収増益で終わったが、23年度は続くインフレによる原材料・人件費・エネルギー費の高騰や、為替の影響により利益が圧迫されている。

また、課題として財務体質の改善による収益率向上が挙げられ、これにも注力していく」

1933(昭和8)年創業の日興電機工業は、自動車、建設・産業車両向けに電装品、モータ、エレクトロニクス製品などをOEM供給する老舗メーカーだ。電装品やモーターなどの設計から生産まで自社で行い、大手商用車メーカーや建機メーカーからも技術力の評価が高い。貿易部門のエンジニアティシーをはじめ、中国に日興(寧波)電機、インドネシアのP.T. ニッコウ・チャハヤ・エレクトロニクスなど関連会社でグローバル展開する露木茂雄代表取締役社長に、モーターなどの主力製品に関わる市況から、今後の分野拡大、脱炭素の取り組みまでを聞いた。

これによる価格転嫁は適時進めたが、顧客よりエビデンスを求められるなど、実施が難しい面もあり、すべて実施できてはいないため、現在も対応中だ。銅、鉄、アルミなど金属の価格高騰は転

部品メーカー変更は申請と承認がネック

としたが、今後は市況を見ながら在庫の解消を進めていく方針だ」

— 巻線や特殊電線などの高騰や長納期対策は？

「線材に関しては、当社では顧客に対して市況に応じて対応した。また、余裕を持った在庫を確保することで対応した。ま

た、複数の供給元から手配する対策も行ったが、部品のメーカーが変わること、顧客に対してその申請および承認が必要となり、時間と手間がかかってしまう。よって、安全在庫を確保する方針

変動を価格転嫁する契約となっており、高騰の影響は最小限だ。納期面では、デリバリーの取り組みとして、流通性の高いものや供給が滞りにくいものに置き換えるなど、対策を行って

いる」

— 注力する分野・製品は？

「スターティングモーターやオルタネーターといった現状の主力製品を柱として堅持していく。欧州や日本国内でも、商用車などのジャンルでディーゼルエンジンはい

まだにシェアを持ち、今後も製品が使われていくと考える。また、高効率モーターを第2の柱として開発しており、今後の主力として成長することを期待している。

さらに従来のDCモーターが新しい用途に応用される可能性も模索している。具体的には、シリコンダーやポンプの駆動用といった産業機械向けなど、分野を広げることにも注力している」

高効率モーターの
EVへの応用を模索

— EV普及による販路の拡大は？

「EVの駆動モーターは、当社が扱うモーター

の延長線上にある技術とムの改善を図る。生産管理・原価管理・経理システムなど、基幹システムは行っていないが、基本構造は同じであるため展開は考慮している。従来はさらに普及率が上がった時点において、サプライヤーとして即応できるような技術や生産などの体制を整えているところだ」

— 直近・中長期的な設備投資は？

「まず、SDGsへの取り組みとして、敷地内に太陽光発電施設を導入する。これにより、25年までに自社で消費する電力の35%をまかない、30年には50%をまかなう予定だ。また、電力消費面でも自社で製造している高効率モーターを利用することで、従来の設備のエネルギー効率を改善する。さらに変電(受電)設備も高効率化することで、消費電力を抑制する。次にDX化を推進し、インボイスや電子帳簿化により複雑化したシステ

ムの改善を図る。生産管理・原価管理・経理システムなど、基幹システムは行っていないが、基本構造は同じであるため展開は考慮している。従来はさらに普及率が上がった時点において、サプライヤーとして即応できるような技術や生産などの体制を整えているところだ」

また、電力消費面でも自社で製造している高効率モーターを利用することで、従来の設備のエネルギー効率を改善する。さらに変電(受電)設備も高効率化することで、消費電力を抑制する。次にDX化を推進し、インボイスや電子帳簿化により複雑化したシステ

ムの改善を図る。生産管理・原価管理・経理システムなど、基幹システムは行っていないが、基本構造は同じであるため展開は考慮している。従来はさらに普及率が上がった時点において、サプライヤーとして即応できるような技術や生産などの体制を整えているところだ」

また、電力消費面でも自社で製造している高効率モーターを利用することで、従来の設備のエネルギー効率を改善する。さらに変電(受電)設備も高効率化することで、消費電力を抑制する。次にDX化を推進し、インボイスや電子帳簿化により複雑化したシステ